

公益社団法人 日本水産学会  
令和2年度第5回理事会議事録

- 1 開催された日時 令和2年9月11日（金）13時00分～15時56分
- 2 開催された場所 日本水産学会事務局（東京都港区港南4-5-7）
- 3 理事総数及び定足数 総数 17名，定足数 9名
- 4 出席理事総数 16名

（Web会議システムによる出席）

金子豊二，吉崎悟朗，潮 秀樹，八木信行，廣野育生，山下 洋，中田 薫，横山芳博（第8号議案「Statement of World Aquatic Scientific Societies on the Need to Take Urgent Action against Human-Caused Climate Change, Based on Scientific Evidence」審議中の14時18分に着席），佐野元彦，木村暢夫，落合芳博，小島隆人，平塚聖一（第1号議案「令和3年度春季大会」審議中の13時25分に着席），澤山茂樹，野田幹雄，大嶋雄治

#### 5 出席監事

（Web会議システムによる出席）

杉田治男，野澤知世

#### 6 出席幹事

（Web会議システムによる出席）

坂本 崇，二羽恭介，小山寛喜，澤山英太郎，甘糟和男，長阪玲子

#### 7 出席オブザーバー

（Web会議システムによる出席）

東海 正（第2号議案「令和3年度春季大会募金目論見書」審議後14時04分に退席），塩出大輔（第2号議案「令和3年度春季大会募金目論見書」審議後14時04分に退席）

#### 8 議案

決議事項

- 第1号議案 「令和3年度春季大会」の件
- 第2号議案 「令和3年度春季大会募金目論見書」の件
- 第3号議案 「漁業懇話会委員会委員の追加」の件
- 第4号議案 「会費免除承認」の件
- 第5号議案 「日本水産学会論文賞についての申合せ事項の一部改正」の件
- 第6号議案 「電子請求書の発行」の件
- 第7号議案 「第19回日本農学進歩賞の推薦」の件
- 第8号議案 「Statement of World Aquatic Scientific Societies on the Need to Take Urgent Action against Human-Caused Climate Change, Based on Scientific Evidence」の件
- 第9号議案 「後援」の件
- 第10号議案 「入会承認」の件

- 報告事項 ① 第4回理事会以降の職務遂行の状況  
② その他確認事項

## 9 議事の経過及びその結果

### (1) 定足数の確認等

金子会長が定足数の充足及び Web 会議用装置からなる Web 会議システムにより、出席者の音声、映像が即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認した。続いて本会議の議事進行について説明があった。

### (2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款の規定に基づき、金子会長が議長となり、本会議の成立及び Web 会議システムを用いて開催する旨宣言し、議案の審議に移った。

(決議事項)

#### 第 1 号議案「令和 3 年度春季大会」の件

オブザーバー参加された令和 3 年度春季大会実行委員会委員長の東海会員と総務担当の塩出会員から、令和 3 年度春季大会をオンライン開催とし、トーヨー企画㈱および㈱メイプロジェクトに随意契約で業務委託を行うこと、開催方法の詳細、従前大会との変更点などの原案について説明があった。本件について以下の質疑があった。

潮 理事「メイプロジェクトの業務委託内容は？」

塩出会員「Zoom 開催に向けた種々の契約と運営サポート、ネット回線による本部の設置、大会関係者向けへの Zoom の事前講習などである。」

金子会長「トーヨー企画からメイプロジェクトに再委託する方が責任の所在が明確になるのでは？」

東海理事「業者と検討する。」

吉崎理事「高校生の発表は、ポスターを掲示しておいて、質疑応答は所定の時間内で行うのか？」

塩出会員「そのとおりである。」

吉崎理事「高校生の発表審査でポスターを見ることは可能だが、質疑応答の時間はある程度絞り込む必要があるのでは？」

東海会員「Zoom の各ルームに、複数名の審査員が張り付いて質疑応答の様子を聞いて審査してもらう必要がある。」

大嶋理事「事前に試写室のような確認が必要では？」

東海会員「10 分の入室時間に接続と試写の確認してもらう。また、大会前に接続期間を設けて確認できるよう検討する。」

落合理事「説明と質疑を録画しておいて、後でも見られるようにできないか？」

東海会員「大会の録画は禁止となっている。」

金子会長「参加者の録画は禁止されているが、学会としての録画は可能か？」

東海会員「学会が承認すれば可能であるため、必要であれば検討する。」

金子会長「Zoom は人数制限があったが、規模はどの程度想定しているか？」

東海会員「水産学会の規模に十分対応できるよう契約する。」

金子会長「会員交歓会は開催しないか？」

東海会員「検討してみたが、今回は見送りたい。」

金子会長「英語のセッションはどうするか？」

東海会員「国際交流委員会で大会中のセッションあるいはシンポジウムとして開催する

か検討してもらい、それに応じて準備する。」

中田理事「国際交流委員会で検討するようにする。」

塩出会員「国際交流委員会でも開催方法について説明する。」

金子会長「技術士 CPD 行事参加票はどうするか？」

東海会員「日本技術士会に確認しておく。」

東海会員「講演要旨集は印刷物として発行しなくてもよいか？」

金子会長「一部印刷する必要があるか？」

塩出会員「図書館等への配本分など最低限印刷する必要があるかと考えている。」

金子会長「オンライン化が進む中で、今回で配本分の印刷を含めて廃止するか検討してもらいたい。」

吉崎理事「落合理事より高校生の発表を録音しておくで審査もしやすくなるとの意見もあるので、その点も含めて録音を検討してもらいたい。」

東海会員「学会で承認を得たということで検討する。」

審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

#### 第2号議案「令和3年度春季大会募金目論見書」の件

東海大会委員長から、原案の説明があった。本件について以下の質疑があった。

吉崎理事「今回、高校生の発表は旅費がかからないが、目論見書に高校生による研究発表にかかる経費へ充当と書かれているが？」

東海会員「賞状等の経費や理科教育の一環としての取り組みも理解されるよう記述している。」

金子会長「東洋水産からの寄附を充当していたが？」

東海会員「まだ手続きを行っていないが、寄附が得られるよう取り計らいたい。」

杉田監事「高校生の賞状でグループの場合、各個人に賞状を渡せないか？」

金子会長「大学の推薦入試にも係わるので、複数名による発表を各個人名で渡してよいか検討した方がよい。」

東海会員「この件については理事会に相談させてもらう。」

審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

#### 第3号議案「漁業懇話会委員会委員の追加」の件

吉崎総務担当理事から、原案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で次のとおり可決した。

[選出] 鈴木勝也

#### 第4号議案「会費免除承認」の件

八木財務担当理事から、原案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

#### 第5号議案「日本水産学会論文賞についての申合せ事項の一部改正」の件

潮編集担当理事から、原案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

#### 第6号議案「電子請求書の発行」の件

八木財務担当理事から、原案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

#### 第7号議案「第19回日本農学進歩賞の推薦」の件

吉崎総務担当理事から、男女2名を推薦する原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

#### 第8号議案「Statement of World Aquatic Scientific Societies on the Need to Take Urgent Action against Human-Caused Climate Change, Based on Scientific Evidence」の件

金子会長から、本年6月にアメリカ水産学会から参画依頼のあった「人間活動の影響による気候変動について世界各国の水圏科学に関する学会で共同声明」について説明があった。本件について以下の質疑があった。

大嶋理事「環境保全委員会は知っているか？」

金子会長「環境保全委員会、漁業懇話会、水産政策委員会から意見を得ている。」

審議の結果、共同声明に賛同し水産学会も参画することとし、その旨をホームページに掲載することを出席理事全員一致で可決した。

#### 第9号議案「後援」の件

吉崎総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

① 日本学術会議公開シンポジウム「東北マリンサイエンス拠点形成事業と今後の水産研究のあり方ー豊かな海へ、科学の力でー

主 催 日本学術会議食料科学委員会・農学委員会

共 催 東北マリンサイエンス拠点形成事業（TEAMS）、文部科学省

後 援 復興庁 他17団体

日 程 令和2年11月13日

場 所 東京大学伊藤謝恩ホール（東京都文京区）

希 望 後援

負担金なし

#### 第10号議案「入会承認」の件

吉崎総務担当理事から、原案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

（報告事項）

① 第4回理事会以降の職務執行状況

・会長

金子会長から、次の報告があった。

- 1) イギリス諸島水産学会の年次総会が7月29日に開催され、web参加し挨拶を行った。
- 2) 水産学会の90周年で、成山堂書店から八木理事を通じて90周年に出版を行わないかとの打診があった。この件について、出席理事の意向も確認した結果、85周年を行ったので90周年は特にお祝いをせず出版等もしない方針となった。

・庶務関係

吉崎担当理事から次の報告があった。

- 1) 資格喪失者（会費未納）のうち会費を納入した以下の者を退会へ変更した。

林 裕一（正会員，平成23年度資格喪失）

山本 茂（正会員，昭和62年度資格喪失）

- 2) 令和3・4年度学会賞選考委員会委員選挙の開票結果について報告があった。

- 3) 学会ロゴの商標登録は10年の期限があるため、商標登録の更新を行った。
- 4) 事務局のリモートワークが安全かつ円滑に進められるよう環境整備を行った。
- 5) 日本農学会へ学協会協賛企業・団体リストの提出について次のとおりの報告があった。  
例年、水産学会から農学賞の候補者を推薦しているが、農学会の日本農学賞を受賞すると同時に読売新聞から読売農学賞が同時に授与されている。読売新聞からその活動を継続するにあたって協賛企業を募りたいため、農学会経由で水産学会の協賛企業・団体会員に登録している会員の中から、読売新聞の読売農学賞に協賛していただける可能性がある会員を推薦してもらえないかとの依頼があった。このため、水産学会の賛助会員に本趣旨を説明し、賛同の得られた賛助会員のリストを農学会に提出した。
- 6) 協賛について

共催，協賛，後援の取り扱い申し合わせ3)を適用した。

① 第4回海中海底工学フォーラム・ZERO

主催 海中海底工学フォーラム・ZERO 運営委員会  
共催 東京大学生産技術研究所（生研研究集会）  
協賛 日本船舶海洋学会 他4団体  
日程 令和2年10月16日  
場所 オンライン開催  
希望 協賛  
負担金 なし

② 第61回高圧討論会

主催 日本高圧力学会  
協賛 日本化学会 他51学協会  
日程 令和2年12月2日～4日  
場所 オンライン開催  
希望 協賛  
負担金 なし

・企画広報関係

廣野担当理事から、7月14日に第3回委員会が開催され、次のとおりの報告があった。学会誌に活躍する女性として女性会員から原稿を執筆してもらっているが、原稿の集まりが悪かった。このため、水産系の科研費を獲得している女性に声をかけ、少しずつ原稿が集まっているが、理事からも知り合いの水産系の女性研究者に声をかけてもらいたいとの依頼があった。

・財務関係

八木担当理事から、令和2年6月24日正会員杉田治男会員より寄附金50,000円を受け取り、先ほどの決議事項のとおり会費免除申請が認められたとの報告があった。

・編集関係

潮担当理事から、Fisheries Science (FS) の2019年度のインパクトファクター (IF) が1を超えたため、学会のホームページにリンクを張り、会員に周知しさらなる投稿をお願いする文章を掲載したとの報告があった。この件で以下の質疑があった。

吉崎理事「自己引用率が高いとIFはく奪されると聞いているが、それは何パーセントになるのか？」

廣野理事「担当するエルゼビアの雑誌で突然 IF がはく奪されたが、自己引用率が 20% を少し超えていた。分野の狭いニッチな雑誌だと自己引用率が高くなるが、そうした雑誌で IF がはく奪されるケースが増えている。FS の自己引用率は 10%を切っているので健全と言える。」

・学会賞関係

山下担当理事から、次の報告があった。

- 1)日本農学進歩賞の推薦に関してメール投票を行い、第 7 号議案の受賞候補者 2 名が選出された。
- 2)水産学会各賞の推薦受付を 7 月 31 日で締め切った。本年度は、水産学会賞 2 件、功績賞 0 件、進歩賞 3 件、奨励賞 3 件、技術賞 6 件の計 14 件で昨年度の 24 件に比べてかなり推薦者が減少した。過去 10 年間で推薦者数は最小であったため、来年度は多くの推薦が得られるよう学会として努力していく必要がある。なお、学会賞選考委員会は 9 月 15 日にオンラインで開催し、その時に前回理事会で議論のあった外部の賞に関する推薦者の検討も行っていく予定である。

・シンポジウム関連

落合担当理事から、近々メール審議で現状と今後の方針について確認するとの報告があった。また、春季大会の方針が確定した段階で具体的な対応を検討するとの説明があった。

・出版関係

大嶋担当理事 特になし。

・水産技術誌監修関係

中田担当理事から、次の報告があった。

- 1)水産機構の組織変更により編集委員会の事務局が機構本部から技術研究所の企画調整部門に移った。
- 2)論文の著作権ポリシーを改訂する作業が終わり、最終的には委員会で決定する。

・国際交流関係

中田担当理事から、次の報告があった。

- 1)アメリカ水産学会が 9 月 14 日から 10 日間開催され、一部のセッションで日本水産学会会員が視聴可能との連絡があったため、学会ホームページとお知らせメールで周知する。
- 2)今年 10 月に開催予定であった水産学会議 WFC が延期され、2021 年 9 月 20～24 日に開催されることになり、その次の WFC は 2024 年 3 月 3～9 日にアメリカのシアトルで開催されることになった。
- 3)来年の水産学会春季大会の英語セッションもオンライン開催にして、海外の参加者も受け付ける予定である。

・水産教育関係

山下担当理事，特になし。

・水産政策関係

八木担当理事から、次の報告があった。

- 1)アメリカ水産学会の共同声明について、メール審議を行った結果、すべての委員から否定的な意見はなかった。

2)水産庁からのパブリックコメント「資源管理基本方針等に関するパブコメ」の募集が 8月8日から9月6日までであったため、片山委員長の名前でコメントを書き、八木理事が全体的なコメントを書き加えて提出した。

・漁業・資源管理関係

小島担当理事から、次の報告があった。

1)漁業懇話会に鈴木委員を追加した。

2)国際水産研究所から資源評価レビューアーの推薦依頼があり、水産学会として金子会長名で5名を推薦した。

・水産利用関係

横山担当理事、特になし。

・水産増殖関係

佐野担当理事より、近日中にメール審議を開催し、春季大会での取り組みを決めていくとの報告があった。

・水圏環境関係

澤山担当理事から、アメリカ水産学会の共同声明について、6月5日に水産環境保全委員会において検討し、各委員から賛同が得られ承認することになったとの報告があった。

・男女共同参画関係

中田担当理事から、次の報告があった。

1)男女共同参画学協会連絡会の正会員からオブザーバー会員に変更した。

2)但し、来年度一般社団法人化するため、3年後にオブザーバー会員は自動的に正会員に変更になる。

この件で、以下の論議があった。

金子会長「オブザーバーに変更したが、また正会員に戻ることになるのか？」

中田理事「そのように理解している。」

金子会長「今後の対応について委員会で検討してもらいたい。」

中田理事「了解した。」

・水産学若手の会関係

潮担当理事から、委員会が本日午前中にオンライン開催され、以下の報告があった。

1)若手の会から選出した2名をイギリス諸島水産学会のシンポジウムに派遣予定であったが、中止になった。同テーマで2022年に開催予定となったが、2年後になるため選出された2名の希望も確認のうえ派遣できればと考えている。

2)若手の会からの春のシンポジウムの内容について検討を行っている。

この件で以下の質疑があった。

金子会長「イギリス派遣が決まっていた2名は派遣獲得の既成事実がつくのか？」

潮 理事「それはつくが、行っていない。」

金子会長「選出されたことが客観的に評価されることになればと思う。」

・社会連携関係

横山担当理事 特になし。

・将来計画関係

中田担当理事 特になし。

・北海道支部，地域連携関係

木村担当理事から，次の報告があった。

- 1)春季大会が来年に延期となったため，北海道支部の大会を11月～12月に2日間，シンポジウムと発表会をオンライン開催する予定である。
- 2)来年度秋季大会の開催方法を検討した。オンライン開催する場合には春季大会の方法を踏襲するが，函館キャンパスで対面による開催をする場合には，10会場のうちスペースの大きいものは2会場のみで，残りは40名程度の会場となる。このため，函館キャンパス開催のほかに札幌キャンパス開催にするか，対面とweb開催との併用などの開催方法も検討し，来年2月の理事会までに結論を出すことにする。

この件で，以下の質疑があった。

金子会長「来年の秋季大会の開催方法はまだ決まっていない？」

木村理事「できるだけ対面が行えるように考えているが，スペースの兼ね合いで函館キャンパスは難しいので，実際どのように開催できるか懇親会を含めて検討中である。」

金子会長「1年先の状況が読めない中，難しい選択になるが，コロナ後の大会の開催方法の試金石になると思うので検討をよろしく願います。」

・東北支部，地域連携関係

落合担当理事から，支部大会を10月10日にオンライン開催し，シンポジウムと一般研究発表を行う予定であるとの報告があった。

この件で，以下の質疑があった。

金子会長「東北地方のコロナの状況はどうか？」

落合理事「岩手県でも発生し，数は少ないが続いている。」

金子会長「東京から仙台に行ったときに意識されるか？」

落合理事「仙台であればそれほどではないと思う。」

・関東支部，地域連携関係

小島担当理事から，決議事項のとおり春季大会のオンライン開催に向けて準備が進められているとの報告があった。

・中部支部，地域連携関係

平塚担当理事から，支部大会を12月頃にオンライン開催できるように検討中であるとの報告があった。

・近畿支部，地域連携関係

澤山担当理事から，支部大会のオンライン開催を検討しているとの報告があった。

・中国・四国支部，地域連携関係

野田担当理事から，例会をオンライン開催の方向で検討しているとの報告があった。この件で，以下の質疑があった。

野田理事「ある団体から寄附金を受けてオンライン開催の経費に充てたいと考えているが，寄附金の会計上の手続きをどうずればよいか？」

八木理事「支部担当理事が判断して大丈夫となれば，寄附金の欄に計上すれば問題ない。」

・九州支部，地域連携関係

大嶋担当理事から，支部大会を1月8，9日に予定しているとの報告があった。なお，開催方法は対面とオンラインの併用も考えているがまだ方針を決めていないとの説明が



あった。

・英文書籍監修委員会（特別委員会）

金子会長から、これまで英文書籍で出版された3冊のダウンロード数について、次のとおり報告があった。

萩原会員が中心となったワムシの本は7,200回、竹内前会長が中心となってAquaculture system関係の本は9,134回、青木会員が中心となった資源学の本は8,300回のダウンロード数となっている。いずれもダウンロード数が多く、各章ごとに購入してダウンロードされることから、かなり売れていることになる。購入者も多いことから、出版に興味のある会員等に声をかけてもらいたい。

・東日本大震災災害復興支援検討委員会（特別委員会）

落合担当理事から、次の報告があった。

1)本年度に委員会を解散する予定である。

2)土木学会から依頼のあった学会誌の寄稿について前向きに対応する。

・財務検討委員会（特別委員会）

八木担当理事 特になし。

② その他確認事項

(1) 令和2年度理事会開催日程

吉崎総務担当理事から、次回理事会の開催を11月28日13時から開催するとの説明があった。

以上をもってWeb会議システムを用いた会議は、終始異状なく議案の審議等を終了したので、15時56分、議長は閉会を宣言し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した議長（代表理事）及び監事は記名押印する。

令和2年9月11日

公益社団法人 日本水産学会

議長 会長（代表理事）

監 事

監 事